
戦争のある風景

茄子野郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦争のある風景

【Nコード】

N46410

【作者名】

茄子野郎

【あらすじ】

毎日が生きるための戦争だった。

その戦争の正体とは…

今は何時なのか、ここはどこなのか、そんなことは分からない。ただ一つ分かっていること、それは毎日が戦争であるということ。生きるために、戦わなければならない。戦わなければ死ぬだけだ。そしてこの戦争には終わりが無い。もし終わりとすれば、それは私が死ぬ時だ。

私は何時生まれたのか記憶がない。もっとも、それは誰だって同じだろう。

両親の顔は覚えていない。兄弟はたくさんいた。しかしおそらくもうみんな戦死しているだろう。

私はこれまで無数の仲間が死んでいく様子をこの目で見てきた。完全に油断してやられる者、敵から長時間必死で逃げ惑った末に結局はやられてしまった者などどれも目を覆いたくなる光景だった。

やられた者は皆例外なく白い布で覆われた。なぜなのかは分からない。敵なりの弔いなのかもしれない。

最近はこのまでの旧式武器とともに、敵は最新式毒ガスを使ってくるようだ。

ガスを吸ってしまうと意識が遠くなっていき、やがて死に至る。おそろしい兵器だ。

だが旧式武器でやられるよりもこっちでやられる方が案外楽なのかもしれない。

もうずっと何も口にしていない。動くのも辛くなってきた。

私は意を決して敵に飛び込み、食料を盗むことにした。

な―に、心配は要らない。慣れている。私は戦争をするために生まれてきた

ようなものだから。幸い敵は気付いていない。私はありったけの食料を盗み

その場で食らい尽くした。やっぱり旨い。

これであと3日は食わなくても平気だろう。

急いで見つからないようにその場を去ろうとした時だった。

「パーン」という乾いた音ともに鈍い痛みが走った。

とうとう私もやられたらしい。ついに私も死ぬのか… 戦争は終わりだ…。

薄れ行く意識の中私にも白い布が被せられようとしている。

視界が遮られる直前、敵の仕留めた、という優越感に浸る顔と同時に

旧式武器についてしまった血を「汚らしい」という目でふき取る敵の顔が見えた。

しかし、全くおかしなやつらだ…

武器についた血は確かに私の体から吹き出たものだが、その血はまぎれもなくやつらのものであるというのに…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4641o/>

戦争のある風景

2011年10月8日03時42分発行